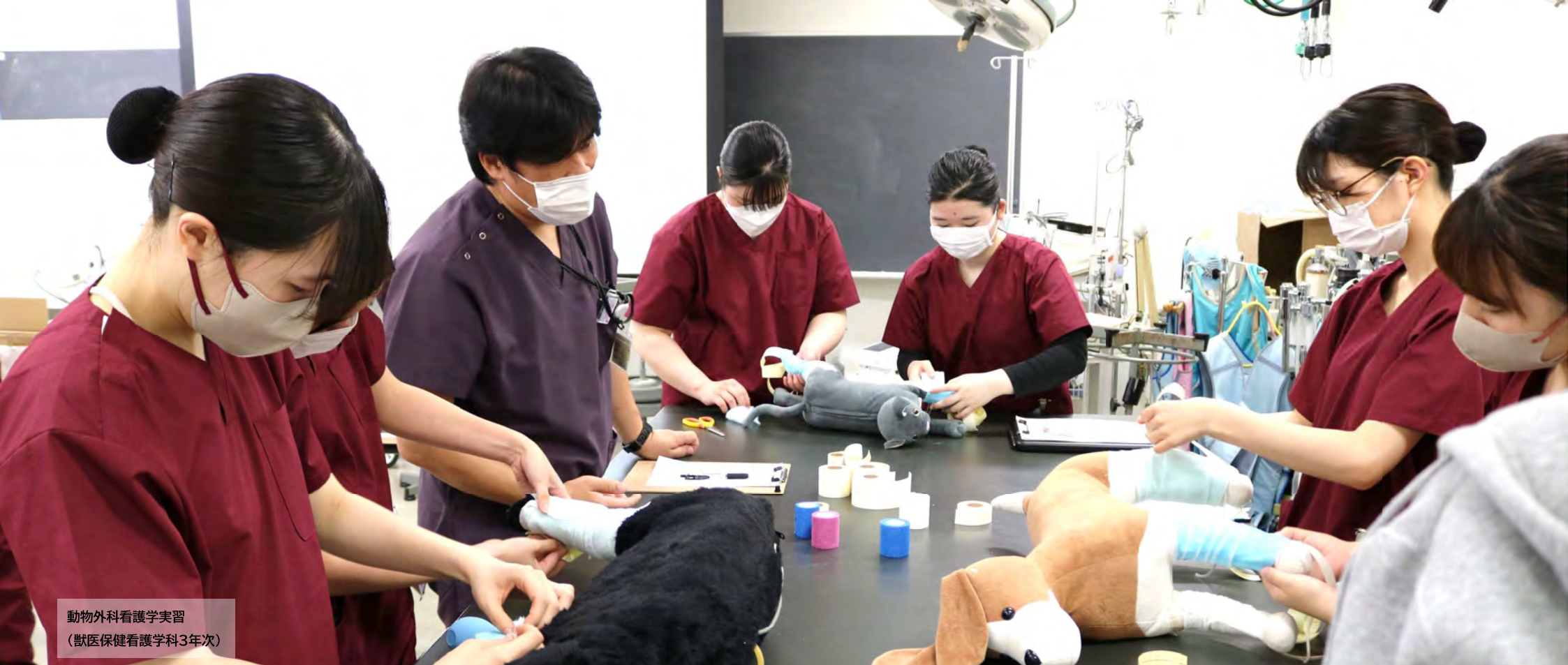


Hello

we are NVLU

ニチジュウ 実習 カタログ





動物外科看護学実習
(獣医保健看護学科3年次)

P4 学長メッセージ

P6 【特集】実習カタログ

- ・獣医学科 獣医薬理学実習
- ・獣医保健看護学科 動物外科看護学実習
- ・動物科学科 動物繁殖学実習
- ・食品科学科 畜産食品化学実験
- ・オーストラリア実習
- ・農場実習

P12 【特集】愛玩動物看護師 国家試験
2年連続合格率100%

P14 【連載】スペシャリストへの道

- ・獣医学科6年次 山本孝磨さん
- ・ウィメンズクリニックふじみ野
佐々木志野さん(1998年3月日本畜産大学畜産学科卒業)
- 鈴木陽香さん(2012年3月本学動物科学科卒業)
- 三井奈緒さん(2017年3月本学動物科学科卒業)

P16 【連載】博物館活動日誌

P18 【News Topics】ニチジュウCAMPUS NOW

P20 Congratulations on the AWARD !!

- ・紫雲賞 知久和寛 准教授
- ・梅野信吉賞 塩川舞 講師

P22 新任教員紹介

- ・伊豆弥生 教授
- ・淀健治 講師
- ・秋山蘭 助教
- ・鈴木亜美 助教
- ・杉林佳代子 助手

CONTENTS

Hello
we are NVLU

動物とヒトを繋ぎ、都市と地方を繋ぐ架け橋はヒト自身です。
未来につなげるにはヒトとヒトとの繋がりを大切にしなければ
ならず、本大学にとって「繋がり」は強みです。その強みを一言
で表すと「Hello」。
獣医と生命科学の情報発信拠点たる我々が世界にHelloと呼
びかける必要があるのです。

ポストコロナの日獣大チャレンジ

大学報「Hello, we are NVLU」の再開に寄せて



本学卒業の若手職員での合同チームー

大学広報誌検討チーム

「大学広報誌検討チーム」は、鈴木学長より、山積している大学の問題点等を検討するために設置した検討チームの一つです。

大学の若手事務職員が選抜され、事務局長、入試課以下のメンバーで大学報を企画・検討して作成します。

【大学広報誌検討チーム】※()は卒業学科
教務課 主任 藤野 萬純(動物科学科)
庶務課 主任 加藤 千佳(獣医保健看護学科)
庶務課 加賀美 早紀(動物科学科)
入試課 堀 碧衣(獣医保健看護学科)
博物館 石井 奈穂美(獣医保健看護学科)



「学内行事について」よりー

第6回 医獣祭(令和5年開催)

ホームカミングデー×オープンキャンパスの特別企画として、本学卒業生の齊藤慶輔先生にご講演いただきました。

野生生物専門の獣医師として、北海道で絶滅の危機に瀕した猛禽類の命と向き合っており約30年。野の者達とのよい共生を目指した自然環境の改善、「環境治療」の最前線をご紹介します。

(右)齊藤慶輔先生(獣医師)
本学 獣医学科(野生動物学教室)卒業。
平成17年に猛禽類医学研究所を設立し、現在その代表を務める。



「学生自治について」よりー

日本獣医生命科学大学学生会

学生会は学生全員をもって組織され、全員の民主的精神、自主的活動により、大学生活の維持、充実をはかり、学生自治の健全化に努めています。

年に2回、学生総会があります。これは学生会の最高議決機関で、方針や予算の決定、決算の承認などさまざまな議決の決定を行っています。



学生会執行委員会
会長 水ロー博さん
(動物科学科3年次)

(コメント)
学生会執行委員会のメンバーが一押し、まだまだ未熟な点もありますが、応援よろしくお願いします！



こんにちは

日本獣医生命科学大学学長の鈴木浩悦です。

この度、令和5年度に一旦お休みした大学報を再開いたしました。大学報の発行を担当していた学長室・企画調査課が庶務課に吸収され、大学広報の担当は入試課に移りました。大学報はこれまで、現在進行中のリアルな情報を学内関係者(主に学生さん、父母、教職員)に提供する役割を担ってきたため、入試課だけでなく、教務課、庶務課、博物館から本学卒業の若手職員で合同チームを作り、入試課と一緒に学報の企画、取材、発刊を進めることとしました。大学のトピックや皆さんが知りたいことなど、日獣大をさらに好きになってくれるような情報を伝える役割を果たしていくことが目標です。担当者からアイデアの相談や取材などありましたらどうぞご対応をお願いします。

さて、ほぼ3年間続いたコロナ禍は、大学で継続的に行われてきた様々な行事や活動を停止させ、学生間の密接な関係を分断しました。コロナ禍の制限が徐々に撤廃されていく段階で、様々な活動が再開し、少しずつ大学全体に活気が戻ってきています。とは言え、先輩から後輩への引き継ぎが完全に分断された活動においては、手探りでゼロから新たに始めなければならないものもあり、まだ回復の途上とも言えます。

学内行事について

体育祭や医獣祭は、令和4年度は学内関係者のみで行っていましたが、令和5年度から外部からの来場者も受け入れ、コロナ前の形に戻りました。さらに、医獣祭を全学的な取組にすることを目標に、医獣祭の期間にオープンキャンパスとホームカミングデーを同時開催し、猛禽類研究所の齊藤慶輔先生(40期獣医学科卒)にご講演いただきました。コロナ禍によって分断された人同士の直接の交わりが求められていたと言う背景もあったかも知れませんが、結果的にコロナ禍前を上回る1万人近くの来場者がありました。この2年間、医獣祭実行委員の学生さんにとっては、実質的な医獣祭の経験がない中での新たな取組だったのではないかと思います。医獣祭の伝統を絶やさず、復活に向けて、協力いただいた学生、同窓会、後援会、教職員の皆さんに感謝致します。その代表として令和4年度の医獣祭実行委員長の脇口歩祐子さんには学位記授与式において権章が贈られました。おめでとうございます。

今後の医獣祭について、学生さんが楽しむことのできるイベントであると言う前提はもちろんのこと、オープンキャンパスやホームカミングデーだけでなく、各センターや付属施設の協力を得て、その相乗効果によって、情報発信の場、地域に愛されるイベントとなる様に盛り上げていきたいと思っています。そして学生さんにはその活動のなかで、様々なことを実践し、学んで欲しいと思います。

日本獣医生命科学大学

学長 鈴木 浩悦

学生自治について

大学におけるクラブ活動への参加者もコロナ禍で減少し、それはまだ回復途上にあります。コロナ禍では多くの大会が休止し、人同士の接触のあるスポーツ系の部活動はほとんどが休止状態であったので仕方ありません。これらの部活動をまとめているのが、学生自治組織の学生会です。入学時に諸経費として学生会費が大学に納入され、それが各クラブや学園祭実行委員会などに配分されているわけです。昨年度から学生会執行部との面談を開始し、まず始めに古くなった学生会の会則を現状に合わせて変更してもらいました。今後、各クラブの発展に向けて、確実な予算配分が行われると思います。

私が学生の頃には、大学の移転問題があり、学内に立て看板が立てられ、学生会が学生を代表して大学側と交渉すると言っていたことが行われていました。現在はその様な問題はありませんが、大学に対して何か要求があれば、1人で言うよりはまとまって意見した方が力は大きいはずです。実際には、大学に対する認証評価等で、大学の教育に学生の意見を取り入れることが求められています。大学教員だけの会議では、常に学生にとってベストな判断ができるとは限りません。一方で、学生側もどのようなステップで大学教育が決定され、どのような思いで先生方が教育を行っているのかということを理解することは大事です。様々な大学運営に学生の意見が反映される仕組みを作りたいと思っています。そのためには学生さんの協力が必要です。よろしくお願いします。

最後に

コロナ禍で苦しかった3年を乗り越えて、様々な活動が徐々に復活してきていますが、まだポストコロナの新たな時代に船出したばかりです。先日の日本医科大学と本学学生の交流会には、予想を上回る約85%の新入生の参加がありました。ポストコロナ時代の特徴として、SNSツールでのやり取りだけでなく、人と人との直接の交流が以前より求められる状況になっているのかも知れません。大学は学業だけでなく、皆さんが今後人生において直面する様々な問題に対処するためのリハーサル場でもあります。様々な活動を通じて、良い経験を積んでください。また、他学科や背景の異なる人と話すことで、コミュニケーション力を磨いてください。

各学科の専門性に加えて+αの力を身に付けることが特に大事だと考えており、来年度から全学教育センターを立ち上げる予定です。+αとは専門性を社会で生かすための、コミュニケーション能力、語学、分析力などの基盤となる力や、教職や学芸員などの教育課程や履修選択によって学科横断的に取得できるライセンスです。これらの教育課程のサポート体制により充実させたいと考えています。皆さんは是非、専門性に加えて+αの力を様々な授業や活動から得て卒業してください。





獣医学部 獣医学科

獣医薬理学実習

担当教員 金田剛治教授
神田秀憲助教

履修年次 3年次

実習内容

全8回に渡り、薬物が効くメカニズム（作用機序）や薬物の違いによる生体反応の基礎知識について学ぶことはもちろん、実験器具の操作方法、さらには実験後のデータの解析方法について、薬物を軸に獣医師として必要な知識を多角的に学びます。



▲教員のデモを真剣に見て学ぶ学生たち



▲ビベットを使用し、薬剤を投与



▲5〜6人/班で学びます



▲わからないことは教員に質問



▲反応はこの装置に出力されます

今回取材した実習は、「交感神経系に作用する薬」をテーマに実験をしていました。交感神経物質が血管に作用する時の血圧変化の原理を学ぶことを目的とし、実際にラットの血管に薬剤を投与して、反応を見ることで作用機序を学びます。

この実験でキーワードとなる「内皮細胞」。内皮細胞は、血液を固まりにくくする物質を放出し、血管年齢を若く保つために重要な役割を担っています。使用していた標本には、内皮細胞が「あり」の血管と「なし」の血管、2つの血管標本がありましたが、最初はどちらの標本が「内皮細胞「あり」か「なし」か学生たちは知らないのだとか…学生たちは、薬剤投与後の反応から考察して内皮細胞の有無を判断します。

最初から答えを出さずに反応結果から考察して欲しいと、実習を組み立てている教員の思いを感じました。また、作用機序だけでなく、内皮細胞がどのような働きをするのか、なぜ重要なのか、内皮細胞が「あり」と「なし」、両方の標本を使用し反応の違いを見ることで内皮細胞の重要性を学びます。考察するには、薬理学の知識だけでなく、細胞や内臓の働きなどの生理学の知識を踏まえて考えることが必要となり、他の科目で学んだ知識全てを繋げて考察し討論する学生たちの姿が印象的でした。

学生Interview

—実習を通して学んだこと

数種類の組織標本を用いて、薬による作用やその機序について学びました。座学で得た知識を目で見ることで理解を深めることができました。また薬の投与から作用の発現までの一連の流れを観察するにあたり、他の科目で学んだ知識を引き出して考えることが増え、薬に対する生体の応答へのイメージが湧きました。

—難しいと感じたこと

投与した薬による反応を実際に見ながら、その作用機序について他の科目で学んだ内容を踏まえて1つ1つ理解していく作業が大変でした。友達同士で休み時間や実習中の待ち時間に教え合うなど、みんなで内容の理解に努めました。

—楽しいと感じた瞬間

実験で予想に反する結果が出た時に、「なぜ予想と違ったのだろう」「どのようにしたら予想していた反応が見られたのだろうか」などと友達と意見を交わして一緒に悩んだ時間が楽しかったです。

—最後に一言お願いします！

薬理学実習では、座学で学習した薬の作用を実際に見て確認することができます。友達と一緒に学びながら理解を深めたことで、有意義な時間を過ごすことができ、楽しく実習に参加できています。この実習は、1つの薬について、その作用を実際に見ながらじっくり考える貴重な機会だと思います。

Myピンセットやハサミを持参！



獣医学部 獣医保健看護学科

動物外科看護学実習

担当教員 関瀬利助教
宮田拓馬准教授

履修年次 3年次

実習内容



▲術野の消毒：まずは教員が実践



▲滅菌方法：2人ペアになって実践



▲講義を聞いてから実践に移ります



▲ドレープをタオル鉗子で固定



▲班員に包帯を巻いてみて
弱弱を体感



—印象に残っていること

包帯を班員同士で巻き合い、巻かれたときの感じ方を試してみました。想像していたよりも緩い力で巻かないときつく感じるということがわかり、実際に巻いてみることで動物側の気持ちに寄り添って考えることができました。

—最後に一言お願いします！

初めてスクラブを着用したため、意識も変わり、また一つ愛玩動物看護師に近づけたように嬉しく感じました。この実習では、縫合や電気メスについても学ぶことができ、獣医師の仕事にも触れることによって補助がしやすくなりました。

アレルギー等の
体質に合わせて
手袋の種類も
たくさん！



学生Interview

—実習を通して学んだこと

手術で使用する器具の名前や用途についてや滅菌の仕方など、手術に必要な知識を中心に学びました。術後管理だけでなく、手術準備も愛玩動物看護師の業務であることを学び、仕事の幅が広がったように感じました。

—難しいと感じたこと

手術で使用する鉗子・開創器・鑑子は多くの種類があり、全ての器具の名前と用途を覚えるのが大変でした。ハサミ先端の溝の違いや刃の薄さなど、触ることで特長を掴むようにしました。

楢井ひよりさん
(獣医保健看護学科
3年次)



応用生命科学部 動物科学科

動物繁殖学実習

担当教員 履修年次

牛島仁教授 3年次
岡田幸之助准教授

実習内容

全8回の実習で、マウス・ウシ・ブタの哺乳類の生殖器標本を使用し、観察・スケッチするほか、これまでの講義で学習した生殖機能・生命活動の仕組みについて、実体験によってより理解を深めます。また、実験を通して実験器具の使用方法や生殖細胞の操作方法について学びます。



▲キャピラリーという器具で標的卵子を操作することによって正常卵を採取



▲2~3名を1班とし実習を受ける



▲採取した精子や卵子を培養

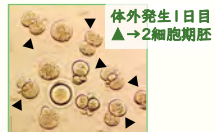


▲生殖器の標本をスケッチ

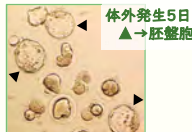


▲教員から直接伝授

マウス体外受精卵の体外発生



体外発生1日目
▲→2細胞期胚



体外発生5日目
▲→胚盤胞

今回取材した実習では、「マウスの雌雄生殖器の観察とスケッチ」、「マウスの体外受精」をテーマに実習を行いました。

「マウスの雌雄生殖器の観察とスケッチ」では、雌と雄の生殖器の違いを観察してスケッチすることによって、それらの構造を細部まで理解します。

「マウスの体外受精」では、実体顕微鏡下で卵子を採取した培地に精子を入れ、マウスの体温(37度弱)と同じ温度に保ってある炭酸ガスインキュベーターにて培養し、体外受精させます。体外受精後は、受精卵の正常・異常を見分け、ガラスキャピラリーという器具を使用して正常受精卵のみ取り出し、さらに5日間培養し、受精卵の発生状況を観察、記録します。

実習をしていると、「44個受精卵があるのに全部異常だった!」、「11個の受精卵があったけど、全部正常だった」との声も上がり、班によって結果は様々。同じ作業をしているはずなのに、結果の違いに実験の難しさを感じました。

繁殖学の基礎知識や生殖細胞の操作方法を学ぶことは、種を存続させるために必要不可欠です。学生たちはこの実習で、繁殖の重要性を実際に生殖細胞を操作することや観察することによって学んでいました。

一楽しいと感じた瞬間

顕微鏡で覗かないと見えないほど小さい精子と卵子が出会い受精すると、何百、何千倍と大きくなると考えると、生命の神秘を感じられてワクワクしました。

一最後に一言お願いします!

実習を行っているとうまくいかないこともありますが、何が問題なのかを考えて解決できた時は、つまづいた分とても嬉しく感じました。なかなか経験できない貴重な充実した実習でした。

初めて使用した
実体顕微鏡!
反射鏡の使い方が
いつもと違う...

学生/Interview

一実習を通して学んだこと

なかなか見ることのできないウシの生殖器の標本やマウスの標本を観察し、精子や卵子の構造、役割などを学びました。また、生殖器だけでなく、生殖器周辺の臓器や骨格についても観察し、解剖学についても理解することができました。今まで使ったことのない実体顕微鏡の使用法やピペット操作など、実験に必要な器具の取扱い方法についても学びました。

一難しいと感じたこと

精子数を求める計算式がすぐに理解できず、一人で考えても班員全員考えてもわからず、その後、先生や他の班員にも何度も聞いてやっと理解できた時は嬉しく達成感がありました。

中田ひかるさん
(動物科学科3年次)



応用生命科学部 食品科学科

畜産食品化学実験

担当教員 履修年次

佐藤薫教授 3年次
三浦孝之准教授

実習内容

乳・肉製品を実験素材とし、これら畜産食品の成分および物性について科学的に理解することを目的とします。また、実際に乳業界で使用されている専門的な測定器の使用方法や生乳の鮮度を測定する方法等、またその測定原理について学びます。



▲乳糖測定の実験中



▲アイスクリームをみんなで試食



▲液体・泡の色の变化で乳糖を測定



▲製造実習室でアイスを製造



▲出来上がったアイスを取り出します

アイスの変化



最初は液体
みるみるうちにふくらんで...

／出来上がり!

学生/Interview

一実習を通して学んだこと

牛乳の成分分析、品質管理に用いる公定法について学び、専門的な分析方法を知ることができました。

一難しいと感じたこと

今まで使用したことのない比重を測定するラクトメーターなどの専門器具の使用方法や計算方法に最初は困惑しました。教員や先輩方にアドバイスをもらいながら徐々に初めて触れる器具なども使用できるようになりました。

笹原紅愛さん
(食品科学科3年次)

一印象に残っていること

アルコールテストは、実際の現場でも使用されている方法で生乳に異常がないかを瞬時に見分けることができます。とても簡単かつ安全に実施することができる鑑別方法で感動しました。

一最後に一言お願いします!

畜産食品に関する専門的な実習で難しいと感じることもありましたが、教員や先輩方が教えてくれるので不安に思うことなく実習に参加できました。また、座学で学んだ牛乳の知識と紐付けることで一層楽しむことができました。

この機械で
15分撹拌する
とアイスに!



オーストラリア実習

4学科合同実習として実施



オーストラリア・クイーンズランド大学との国際交流事業の一環として実施される実習。野生のコアラやカンガルーなどの有袋類、イルカなどの水棲哺乳類の観察、野生動物の保護・診察施設やオーギービーフを支える農畜産物加工場等を見学します。



プログラムは低学年次向けの基礎コースと高学年次向けの応用コース・臨床コースの全3コースがあり、内容は年度によって異なります。今回の取材では、令和4～5年度に実施したプログラム内容を紹介します。

実習内容

CWH



野生動物病院「Currumbin Wildlife Hospital (CWH)」にてオーストラリアに棲息するコアラや鳥類などの野生動物の診療や園内で飼養する固有種の管理について学びました。実際の症例の受け入れの様子や、翼を負傷したり重油が付着した鳥の治療、内視鏡検査、エキゾチックアニマルの投薬法や麻酔法など、実習内容は日本では学ぶことの難しい内容ばかりでした。



オーストラリアに生息するコアラの間では失明や不妊、死を招くクラミジアの感染が広まり深刻な状況になっています。治療に使用される抗生物質はコアラがユーカリの葉を消化吸収するのに必要な腸内細菌に影響してしまうため治療を難しくしています。CWHはオーストラリア国内の大学と協力してワクチン開発も行っており、研究機関としても機能しています。

DFWP



野生動物公園「David Fleay Wildlife Park (DFWP)」にて、園内にいるオーストラリア固有種の管理について学びました。必要な栄養素を考えながら食事を用意したり、好奇心旺盛なネズミの環境エンリッチメントを高めるおもちゃを作りました。



羊の牧場「Awassi Farm」では自家製チーズ工場を見学した後、羊乳チーズを試食しました！羊乳は高タンパクでコクが出るんだとか！食品だけでなく、羊乳を使った化粧品も製造されていました。

Currumbin River



Currumbin Riverをカヤックで下りながら野生動物の生態について学びました。ここで見られるオオコウモリは、夜間に受粉可能な広葉樹の花粉を、鳥や蜂よりも広い範囲に運ぶ重要な役割を果たしています。一方で、人獣共通感染症の原因となるウイルスを保持しており、扱いには気を付けたいといけぬ動物でもあります。実際に保護活動に従事している方を講師に招き、オーストラリア社会におけるコウモリとの関わりについて学びを深めました。



North Stradbroke Islandにクイーンズランド大学の海洋研究所があります。ここでは、海岸に流れ着いたゴミを拾い、一体どこから流れ着いたのか？年間どのくらいの量のゴミが流れつくのか？など、ゴミが海洋生物に与える影響について学びました。

他にもこんなプログラムがあります！



日本では見ることでしかない珍しい動物たち！ふと回りを見渡すと街中に動物たちがたくさん。

- ・動物看護師によるドッグトレーニング
- ・動物保護施設の見学
- ・屠畜場の見学
- ・ソーセージ等の食肉加工場の見学 など…

農場実習

動物科学科が本学付属施設である富士アニマルファームで実施

本学付属施設である富士アニマルファームにて動物科学科2年次に実施される農場実習。

2泊3日の実習では、実際にウシやウマ等の動物に触れ、牧場作業を体験し学ぶことで産業動物の飼養管理を理解することを目指します。

実習内容

Day 1

特別講義「衛生管理の話」
品種や畜舎・付帯施設の説明
搾乳や牧場作業

牧場内を回り、実際の施設設備、動物を目の前に農場に必要な設備や品種について教員が説明してくれます。

Day 2

搾乳・牧場作業
乗馬・馬学
乳質・臨床検査
肉牛堆肥
栄養肉牛
繁殖学
草地・畜産経営 他

乗馬や乳房炎の検査方法、牛の肛門から手を入れて腹腔内の臓器を調べる直腸検査など産業動物の飼養管理について様々な角度から学びます。



Day 3

搾乳・牧場作業
富士サファリパークにて特別実習
特別講義「動物園動物の管理」

動物園とサファリパークの違いや群飼育について、動物科学科の卒業生である飼育員の方が説明してくれました。



▲朝の4:30に起床！ラジオ体操から1日が始まります

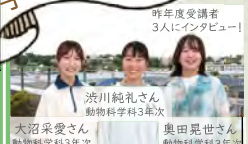


▲乗馬しながらみんなで一枚！



▲ジャージー牛の出産直後

学生Interview



昨年度受講者3人にインタビュー！

大沼采愛さん 動物科学科3年次
奥田晃世さん 動物科学科3年次

一学んだこと

産業動物飼育の基礎知識を学びました。座学で習ってきたことを実際に作業することで、より一層知識の定着ができたと思います。

畜産農家の生活を体験し知ったことで、動物が好きであることを再認識し、牧場に勤めることが将来の1つの選択肢になりました。

また、農場実習で学んだ知識が基礎となり、学外の実習で応用することができました。

一印象に残っていること

ジャージー牛の出産に立ち会ったことです。仔ウシを引っ張りだして出産補助を行い、生まれたときはとても感動しました。

また、知らぬ間にヤギが生まれていたことです。仔ヤギを抱っこすることができました！

乗馬の時にウマの性格の違いを感じることができ、生き物って面白いと感じました。我が強く、手綱を強く引かないと動かないウマや歩いている途中に草を食べるウマなど…これが本当の“道草”か…と思いました。

ウシの採血をしているところも見学させてもらい、採血する首の血管を実際に触らせてもらいました。牧場などでウシを見ることはあっても、採血する血管まで触るのは初めてのことで、農場実習だからこそできた体験だと思います。

他にもたくさんの学外実習があります！

タイ実習

ゴルフ実習

付属牧場実習

北海道牧場実習

動物衛生学実習Ⅰ・Ⅱ

動物愛護・適正飼養実習Ⅰ

ウォーキング実習

食料・農業・農村調査実習

獣医保健看護体験実習

ダイビング実習

スキー実習

人間動物関係論実習

共済実習

家畜人工授精講習会

北海道食品セミナー

ニチジュウ実習カタログ 2024

日獣の学外実習を紹介！

愛玩動物看護師 国家試験

2年連続合格率100%

令和元年6月に「愛玩動物看護師法」が成立し、「愛玩動物看護師国家資格」が誕生しました。これまで民間資格であった動物看護師の国家資格化に伴い、令和5年に第1回国家試験が実施され、令和6年に第2回、令和7年に第3回国家試験が実施されます。本学は、第1回・第2回、2年連続で合格率100%!

2年連続100%の結果の裏側には、学生たちの努力はもちろん、獣医保健看護学科 教員の熱い指導、支援があったことにより実現しました。

学科長より



獣医保健看護学科
学科長
近江 俊徳 教授



令和5年度の卒業生は、COVID-19により入学が中止となり、その後もCOVID-19の蔓延により大学の学びや活動に様々な制約を受けた学年でした。しかし、その困難を乗り越え、すべての受験者が国家試験に合格し、本学科では第1回国家試験に続き2年連続合格率100%と大変素晴らしい結果となりました。この結果は、学生達の日々の努力の賜物と誇りに思います。合わせて、教員、付属動物医療センターの皆様のご指導、事務スタッフ方々のご支援、そして保護者の皆様のご協力に感謝いたします。

さて、本学科では国家試験が実施される以前より教員一人ひとり認定動物看護師資格(民間)の資格取得支援に真摯に取り組んでまいりました。そのマインドは担任や愛玩動物看護師資格支援委員をはじめ現職全ての専任教員に受け継がれ、現在の資格支援に生かされています。一方で、合格率100%は結果であって目標ではありません。学生皆さんは、過度に国家試験を意識することなく、健康に気を付けて、学業と課外活動など自身のペースで充実した学生生活を送られることを願います。私達は、学生皆さんを応援しています。



合格率

	第1回 国家試験		第2回 国家試験	
	在学生 (令和4年度卒業生)	既卒者・在学者	在学生 (令和5年度卒業生)	既卒者・在学者
受験者数	95名	👑 全体 位 738名	92名	174名
合格者数	95名	👑 全体 位 723名	92名	👑 全体 位 160名
合格率	👑 大学別 位 100%	👑 大学別 位 98%	👑 大学別 位 100%	👑 大学別 位 92%

取り組み



- 🐾 4年間同じ担任による一貫した学生支援
- 🐾 定期的に学修状況を確認する機会(模試など)を提供
- 🐾 必要な教科書や問題冊子を揃える
- 🐾 対策講座の開講
- 🐾 勉強会班の作成
- 🐾 勉強できる場所の確保
- 🐾 愛玩動物看護師国家試験 激励会 等

合格者数
合計883名
全体1位!



▲模擬病院を備えた実習室
知識・技術の定着を図ります

詳しくはこちら/
 学科ホームページ

教員の支援

第1回愛玩動物看護師資格支援委員長



獣医保健看護学科
森 昭博 准教授

一前例がない第1回目の国家試験でしたが、その時のお気持ちをお聞かせください。

この学年はほぼすべての学生が3年生の時に動物看護師統一認定試験を受けていました。そのため、基礎的な勉強をしている状況で4年生に進級しているため、学生さんが1年間気を引き締めてすごせば大丈夫だろうという安心感はありません。学生全員が第1回 第1回目の国家試験ということでもかなり気合が入っていたのを覚えています。

一学生をサポートするためにどんなことに取り組んでいましたか。

まずは夏休み前に学生さんのリーダーと話し合いをもち、どのような支援を希望しているか確認しました。その中でまずは学生さんをグループ分けして、グループごとに国家試験用の問題集を配ることとしました。さらに4年生の間に2回の模試を実施しました。また試験の1か月前に学科教員で作成した、対策テストを実施することで緊張感をもって2月の国家試験に臨めるように工夫しました。すべての模試や対策テストの結果は学科の教員全員で共有し、研究室で指導している担当教員が、それぞれの学生へ積極的に声掛けをしていただくようにしました。

第2回愛玩動物看護師資格支援委員長



獣医保健看護学科
小田 民美 准教授

合格発表の日には、1名ずつ合格者番号を確認し、全員の番号があった時は、歓喜!

一第2回目国家資格合格率100%だった時はどんなお気持ちでしたか。

優秀な日獣大の学生たちですので、万全の体調で普段通りの実力が発揮できれば試験はきっとパスしてくれるはずと考えていました。心配というよりは、国家試験受験という長い道のり乗り越え、合格を勝ち取ってくれた学生たちの長期的な努力に対する敬意と感謝だったと記憶しております。

一学生をサポートするためにどんなことに取り組んでいましたか。

第1回国家試験に実際に受験した、愛玩動物看護師教員5名(全員卒業生)が委員会の中心となって、実際にどのようなサポートが必要かを、第1回受験の経験を基に早い時期から検討して参りました。4年間の学び直しの総合講座を開講、年4回の模擬試験の実施、少人数で行うグループ勉強会の学習支援など様々な取り組みを行いました。また、通常ルートの受験ではなく、講習会の受講や各種手続き書類などが必要で、複雑な手続きを各個人で実施してもらうことに大きな不安があったため、受験手続きに関する情報共有は特に丁寧に行いました。学生自身の努力はもちろんですが教員のご協力、また熱いご指導もありまして、2年連続100%を達成できたと考えています。

学生インタビュー



4年次
酒見朋佳さん

一国家資格化になったことで気持ちに変化はありましたか。

国家資格化になり、獣医師の指示の下、採血や投薬(経口など)ができるようになったことで業務の幅が広がり、やりがいを感じるようになったのではないかと思います。愛玩動物看護師になりたいと気持ちからさらに強くなりました。また、先生が何度も説明した、それと同時に知識をつけなくてはいけない、とも思いました。

一国家資格化の際に国家資格に関する情報はどこから得ましたか。

2年次に進級した年の5月1日に愛玩動物看護師法が全部施行になりましたが、授業で先生が国家資格化になった経緯や国家資格化に伴い、変わることが説明していただき、大学の授業から情報を得ました。また、先生が何度も説明してくださり、心からの熱意を感じました。

一第3回国家試験に向けて

今は仲の良い友人達と一日一問、問題を共有して友人が出した問題を解いてます。また、その問題に関連する知識を温習して共有し、勉強してます。愛玩動物看護師になれるように勉強頑張ります!



第3回国家試験に向けて

第3回愛玩動物看護師資格支援委員長



獣医保健看護学科
塩川 舞 講師

一第3回の国家資格に向けて取り組みを教えてください。

これまでに構築してくれた支援体制を大きく変えることなく、基本的にはこれまで通りの取り組みを実施する予定です。学科全体としても支援の流れをつかんでいるような感覚があります。とはいえ、学生たちにあまりプレッシャーをかけすぎないことも意識しています。学科の教員全員でサポートしつつ、2月の試験本番に最大限力が発揮できるように、細く・長く・持続的な支援をしていきたいと思っています。

一受験生へ一言お願いします!

ありがたいことに、卒業生の頑張りのおかげで2年連続合格率100%という素晴らしい結果を達成しています。うっすらとプレッシャーがあるような気がしていますが、それは私や学科の先生たちで受け止めるとして、今年受験する現4年生には、「これまでの合格率は気にせず、自分のために精一杯頑張ろう!」と伝えたいです。学生さんを信じているという非常に聞こえが良いですが、実際のところ、うちの学生なら大丈夫、と思っています。

本学の教育理念は「愛と科学の心を有する質の高い獣医師と専門職及び研究者の育成」。
獣医、獣医保健看護、動物、食品に関する専門職(スペシャリスト)の道を歩むことを目指す学生の活動と既に歩んでいる卒業生の活躍を紹介します。



人を巻き込む、熱い気持ち—

山本 孝磨 Kouma Yamamoto

獣医学科6年次

タイムラプス形式紹介動画



レポート形式紹介動画



■獣医学科紹介動画のキャプチャ
山本さんがキャンパス内を紹介してまいります。
上記QRコードからぜひご覧ください！

受験生イベントでの活躍

山本さんは、3年生の時JAVSの会長を務め、その後日獣のオープンキャンパス等で学生相談や学生ツアー、資料の作成等専大の学生の目線で様々な協力をしてくれています。

What is JAVS(日本獣医学生協会)?

JAVSは、Japan Association of Veterinary Studentsの略で日本獣医学生協会といいます。全国の獣医学生が一堂に会する夏大会や各地域、大学ごとの講演会、日本獣医師会主催の動物感謝デーでのブースの出展、お手伝いなどを行っています。

——山本さんが獣医師を目指すきっかけは何でしたか？

スポーツ(陸上)をやっていて、そっで大学も進学したかったんですが、怪我をしちゃったんです。それから、高校3年生で、水族館の獣医師になろうと思い、獣医学科の受験を決めました。あるテレビ番組で日獣の卒業生の勝俣悦子先生の特集が印象的でした。海獣類を研究し、治療しようと思いました！結局は、入学してすぐに方向転換するのですが…

——え!? どんな方向転換ですか？

畜産関係への方向転換です。入学後、やりたいことと需要のギャップに気付いたのと、1年生で群馬県畜産協会の産業動物獣医師研修学支援制度を利用することになったからです。卒業後7年間は群馬県で畜産関係の仕事に就くことになります。入学後すぐに将来を決めるなんてできないと父と喧嘩になりました(笑)。でも、その時父に「9年あればしっかりとした現場感覚や専門性が身に付く。それでこそ獣医師として学んできたことが活きる活動ができる。」と言われて、「そうだな」って思っちゃったんです。

——では、獣医師になって目指したいことはありますか？

獣医師としての知識と他の生命科学や社会科学の知識を兼ね備えた政策立案者になりたいです。他分野にも学びを広げ、獣医師として動物の治療に携わるだけでなく、獣医師として学んできたことが全て活きる活動をしたいです。特に感染症対策における政策立案や農業政策等において日獣で学んだことを発揮したいです。

——獣医学科の紹介動画作成、ありがとうございます!!

話が来てはじめは驚きました。本格的に動画を作ったことがなく、個人的に先輩の卒業時のスライドショーやJAVS紹介の動画程度しか作ったことがなかったためです。一方で、「頭のいい人が獣医学部に入るのではなく、獣医師になって成し遂げたいことがある受験生が合格をつかめるようお手伝いをしたい」という考えのもと、より多くの獣医学部を志望する受験生の励みになればと思い、シナリオ等を書きました。

——最後に在学中、または将来入学する学生へメッセージをお願いします!

僕は高3の時偏差値が35しかなく、獣医を目指すのはチャレンジでした。しかし、何とか一浪して滑り込み、その経験を活かして受験生のためにしたいと思った結果の今です。

JAVSという名前を使って入試課に掛け合って、冊子を何とか受験生イベントの資料に入れてもらえなかつた企画書を書いて何度もお願いに行きました。学生相談会も開催し、翌年に相談に来た高校生が合格し、日獣生として今度は学生相談を開催する側に回ってくれたことは本当にうれしかったです。受験という困難も、きっと将来、誰かの役に立ったり笑いの種になると思っで大切に過ごして行きたいですね!僕もまだまだ精進していきます!皆さんと一緒に獣医師として活躍できたらうれしいです!



胚培養士 三井 奈緒

Nao Mitsui

2017年3月 本学動物科学科卒業

2017年4月 ウィメンズクリニックふじみ野入職

培養室室長 佐々木 志野

Shino Sasaki

1998年3月 日本獣医畜産大学畜産学科卒業
その後、他大学大学院生・研究所研究生として研究
2004年4月 国際医療福祉大学病院入職
2009年4月 ミューズレディースクリニック入職
2017年4月 ウィメンズクリニックふじみ野入職

胚培養士 鈴木 陽香

Haruka Suzuki

2012年3月 本学動物科学科卒業
2012年4月 ミューズレディースクリニック入職
2017年4月 ウィメンズクリニックふじみ野入職

——「胚培養士」とはどんなお仕事なのでしょう？

【三井さん、以下三井】子どもが欲しいと望んでいるご夫婦に寄り添い、患者様の大切な配偶子をお預かりし、管理させていただき、患者様にお返りする仕事です。

——どうして胚培養士になったのでしょうか？

【三井】高校生で参加した日獣のオープンキャンパスで、当時の大学4年生の方から胚培養士という職業を初めて聞きました。また、大学で学んだことを仕事に活かしたいという思いもありました。

【鈴木さん、以下鈴木】私は大学2年生の時に研究室の先生から聞いたのがきっかけです。

【佐々木さん、以下佐々木】私は、日獣を卒業した後、大学院に進学しました。ずっと卵子・胚・精子を研究テーマにしており、研究結果を発表する学会も生殖補助医療に関連していたため、胚培養士は学生時代に身に着けた知識や技術を活かし、自分が働いている姿を想像できる身近な職種でした。

——大変だったこと嬉しかったことを教えてください。

【3人全員】私たちがお預かりしているのはいのち(卵子・精子・胚)であり、毎日責任重大であることです。出産の報告があると、今後もがんばろうと意欲がわきます。

【佐々木】胚培養士の仕事は基本、年中無休です。当然全ての業務を1人でこなすことはできません。また、ON・OFFの切り替えも心掛けています。OFFに気持ちよく休むためにも、患者様の大事な卵子・胚・精子を任せられる信頼関係を築くことが大切だと思っています。

——皆さん、今の動物生殖学教室ご出身なんですね。学生生活はどのように過ごしていましたか？

【三井】卒業論文の研究で朝から晩まで研究室にいたことが多かったです。

【鈴木】学園祭実行委員など様々な学部や人と関わることが有意義でした。また、麻布大学との研究室間の合同発表会があり、新しい知見を得る良い機会もありました。

【佐々木】バイトもしていたので講義内容は極力その当日に復習し、宿題(レポート)もさっさと仕上げ、試験前に慌てないようにしていました。一方で、講義がない日は大学の友人と遊びに出かけていました(行き先が動物園というあたりが日獣生です)。研究室では1人の先輩がつききりで教えてくださいましたが、先輩は就活中(当時は今では考えられないほどの就職氷河期でした)で貴重な時間をいただいていたため、聞き漏らしの無いよう毎回真剣勝負でした。

——本学出身者が3人も所属しているらしいのでびっくりしました!ニチジュウ生の特徴は何ですか？

【佐々木】大学院所属時や職に就いてからも様々な背景を持つ方と出会う機会がありました。そこで感じたニチジュウ生の特徴は、「他人を受け入れる器を持っている」ことだと思います。転じて、「時に強い相手に対しては引き気味になってしまうように感じることがあります。自分の意見ばかりを通そうとするのではなく、相手を立て、事を荒立てることを避けることは良いことはと思いますが、時には自分の意見を相手に伝える努力も必要です。」

——最後に在学生へのメッセージをお願いします。

【佐々木】学生時代にしか味わえない友人との出会い・協調・切磋琢磨を大切にしてください。その過程においては楽しいばかりではなく、ときには仲間との対立、決別も起こるかもしれません。残念ながら社会人になると、そこまで真剣に他人と関係を築くことは難しくなります。上っ面だけの付き合いではなく、真剣に人生相談ができる生涯の友人と出会えることを祈ります。

【鈴木】困ったことや悩むことがあれば、友人や先生に支えてもらい、同じように誰かが困っていたら手を貸してあげてください。素直な気持ちや優しさは、社会に出たあともきっと力になると思います。

【三井】大学生活はあっという間です。様々な経験をし、充実した学生生活を送ってください!

——ありがとうございます!



▲胚を凍結させているところ。
患者様の希望する時期にお返しします。

博物館活動日誌

2023年6月
▼
2024年6月

日本獣医生命科学大学付属博物館は、一号棟を拠点に様々な活動に取り組んでいます。
2023年6月から2024年6月までの活動の一部を紹介します。

【活動日誌133】2023年6月15日公開 学芸員課程実務実習：掛け軸の取り扱い

当館は本学で学芸員課程を履修する学生の実習の場としての役割を担っています。6月10日に非常勤講師の先生にご協力いただき、4年生を対象に「絵画・書籍の展示」をテーマとした実務実習を実施しました。学生たちは本物の掛け軸に触れ、一人一人が掛け軸を軸箱から取り出し、掛け、巻き取り、しまうところまで、掛け軸の取り扱いを一通り学びました。初めて触れる掛け軸を目の前にして、動きがぎこちなくなってしまう学生もいましたが、全員が掛け軸を展示する際のコツや注意事項を学ぶことができました。



掛け軸を閉じる学生の様子

【活動日誌139】2023年7月13日公開 高校生の団体見学を受け入れました

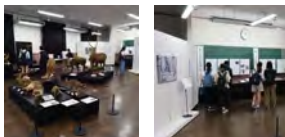
当館は本学の受験を検討している方の見学場所としても活用されています。7月11日に「東京都立鷺宮高等学校」の2年生10名が大学見学の一環として来館され、スタッフが館内を案内しました。



キリンの骨格標本を見る高校生

【活動日誌147】2023年8月24日公開 オープンキャンパスに併せて博物館を開館しました

8月19・20日に本学のオープンキャンパスが開催され、2日間で合計886名の方が当館をご見学されました。



【活動日誌151】2023年9月14日公開 剥製のレントゲン撮影

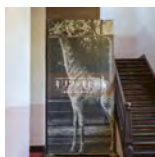
一号棟には以前から大型の海獣類の剥製が展示されていますが、詳細な記録が残っておらず、種名がわからない状態となっていました。9月6日に本学獣医学部獣医学科産業動物臨床学研究室の味戸忠春教授と三浦亮太郎准教授にご協力いただき、種の判別のために剥製の頭部のレントゲン写真を撮影しました。



レントゲン撮影の様子

【活動日誌159】 2023年10月21日公開 キリンの等身大タペストリーを設置しました

11月から正式にオープンする企画展のため、キリン「長次郎」の等身大タペストリーを設置しました。



TOPICS 1：一号棟のキリンの名前が判明し、関連した企画展を開催！

当館が活動拠点としている一号棟の2階には、博物館が開館する2015年よりも前からキリンの全身骨格標本が展示されています。この標本の来歴は不明とされていましたが、当館の調査により、その正体が「長次郎」と名付けられたキリンであり、現存する日本生まれのキリンの標本の中で最も古いものであることが明らかとなりました。当館では、上野動物園から始まった日本におけるキリンの飼育の黎明期を振り返りながら、長次郎が歩んできた歴史を紹介する企画展「キリンが来た道～麒麟児 長次郎の歩み～」を2023年11月3日から2024年6月21日にかけて開催しました。



【活動日誌166】2023年11月25日公開 キリン骨格標本の補強工事を行いました

長次郎の骨格標本は、50年以上一号棟の2階にて展示され続けており、骨格標本を支える骨組みの劣化による頭蓋骨の落下が心配されていました。そこで、頭蓋骨を支えるための補強工事を実施しました。



補強のため一時的に取り外した頭蓋骨

【活動日誌167】2023年11月30日公開 ワークショップ「武蔵野動物観察隊4 野鳥の羽でグッズ作り」に講師として参加しました

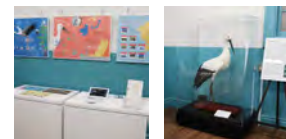
武蔵野ふるさと歴史館との連携事業の一環として、11月19日に開催されたワークショップの講師を当館スタッフ2名が担当しました。当日は武蔵野市在住・在学の中学生9名が博物館に集合し、野鳥の羽を材料にハットピン・ピンブローチを作成しました。



参加者に説明をするスタッフ

【活動日誌180】2024年3月9日公開 コウノトリの展示が始まりました

関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会との連携展示「おしえて!コウノトリ～日獣大にコウノトリがやってきた～」が2月29日から始まりました。この展示では、千葉県野田市からご寄贈いただいたコウノトリの剥製を展示しています。コウノトリは種の保存法に基づき国内希少野生動植物種に指定されています。貴重な標本を守りつつ展示するため、特注の展示ケースを用意しました。※本展示は現在終了しています



【活動日誌188】2024年4月18日公開 キリン講話会を開催しました

4月14日に企画展「キリンが来た道～麒麟児 長次郎の歩み～」の開催記念イベント「キリン講話会」を開催しました。当日は247名の方にご参加いただき、当日実施したアンケートでは87%の方からご好評をいただくことができました。



会場の様子

TOPICS 2：ロゴマーク決定！

博物館のロゴマークが完成しました。館名の英語表記の頭文字と一号棟を組み合わせたデザインです。



日本獣医生命科学大学付属博物館 基本情報

- 【開館日時】 火曜日～土曜日 10:30～17:00
(最終入館および物販は16:30まで)
- 【休館日】 日曜日・月曜日・祝日、年末年始、大学の定める休日(その他臨時休館あり)
- 【入館料】 無料
- 【入館方法】 事前予約制(本学関係者は予約不要)

- ※ 開館日程は事前の告知なく変更になる場合があります
- ※ 学内の方(在学生・教職員)は予約なしで見学が可能ですので、開館日に直接展示室までお越しください。



詳細情報



来館案内

「活動日誌」について

博物館公式Facebookにて、日々の活動をまとめた「活動日誌」を公開しています。2020年10月の公開開始から、これまでに190件を超える日誌を公開しました。このページに掲載した「活動日誌」は、Facebookにて公開した活動日誌に加筆修正を加えた特別版です！

Facebookはこちら





令和6年度 入学式を挙行了しました



4月6日に令和6年度入学式が執り行われ、獣医学科192名、応用生命科学部160名、大学院18名を無事に迎えることができました。



COVID-19感染症拡大の影響により、令和2年度の入学式が中止となったことを皮切りに、翌令和3年度から昨年度まで学部別の分散開催となりましたが、今年度はようやく大学院・全学部集結して開催することができました。

令和6年度入学式
鈴木学長 式辞

学生交流会が5年ぶりに再開しました



本学と日本医科大学の新生を繋ぐ学生交流会が開かれました。

5年ぶりの開催となったこの会では、両大学の多くの新生が参加し、学生同士だけではなく、学長や教員とも交流を深める有意義な交流会となりました。



TOEIC成績優秀者が表彰されました！



本学では、1年次と3年次の全学科を対象として、国際力を身につけ幅広い分野で活躍する人材となってほしいという願いを込め、TOEIC IPテストを実施しています。今回の受験者のうち、高スコアを記録した学生3名が、鈴木学長から表彰されました。



Student Doctor 認定証授与式を開催しました



3月に行われた獣医学共用試験において、獣医学科5年次の学生80名全員が合格を収め、Student Doctor認定証が授与されました。

認定証を授与された学生は、今後臨床実習に参加することができるようになります。

後援会の遠藤由佳会長からは、本学刺繍入りのスクラブとトートバッグが贈呈されました。

Student Doctor認定証授与式
ニュースページ

各種試験結果

【第75回獣医師国家試験結果】

受験者数：78名

合格者数：69名

合格率(本学)：88.5%

※全国平均合格率(新卒)：84.4%

【バイオ技術者認定試験結果】

●第29回上級バイオ技術者認定試験

合格者数：3名(動物科学科2名、食品科学科1名)

●第32回中級バイオ技術者認定試験

合格者数：22名(獣医保健看護学科1名、動物科学科17名、食品科学科4名)

【第2回愛玩動物看護師国家試験結果】

受験者数：92名

合格者数：92名

合格率(本学)：100.0%

※全国平均合格率(在学者)：79.8%

【実験動物一級技術者認定試験結果】

合格者数：5名

【HACCP管理者資格認定結果】

資格取得者数：21名



第42回日本骨代謝学会学術集会にてポスター優秀賞を受賞しました！



獣医学専攻博士課程1年の藤原溪さんが、伊豆弥生教授の指導のもと行った研究成果を第42回日本骨代謝学会学術集会で英語にてポスター発表し、研究課題「Ⅱ型コラーゲンは腱損傷後の細胞遊走方向を決定する」は高い評価を受け、優秀ポスター賞を受賞しました。本研究により、Ⅱ型コラーゲンが腱の再生に必須であることが明らかとなり、人・獣医療におけるアキレス腱の再生医療への貢献が期待されます。

また、指導された伊豆弥生教授は4月より本学の比較細胞生物学研究室で研究を開始し、一緒に研究する人を募集しています！



令和5年度卒業生進路状況

令和5年度卒業生の就職率は…

97.8%

獣医学科 98.5%

獣医保健看護学科

98.7%

動物科学科 94.6%

食品科学科

100.0%



Q. いつから就職や進学を意識した？

約7割の学生が3年次(獣医学科5年次)までには自身の進路を考えています！
そのうち約3割以上の学生が2年次(獣医学科4年次)のうちから進路について意識しています。

Q. 進路が決まった時期は？

約6割の学生が4年次6・7月(獣医学科6年次6・7月)までに進路が決まっています！



専門のキャリアカウンセラーや教員に積極的に相談しよう！
進路相談予約受付中！面接練習、ES添削なども一緒に頑張ろう！
早めの行動が明るい未来を切り拓くよ☆

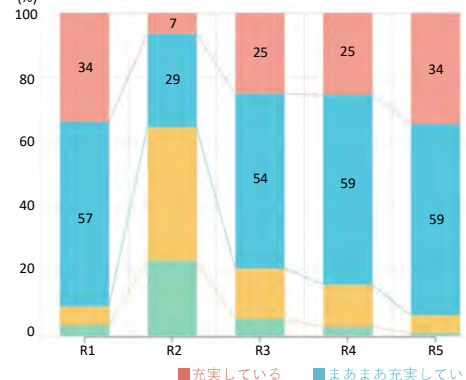


祝 脱コロナ禍！学生生活完全復活か！祝

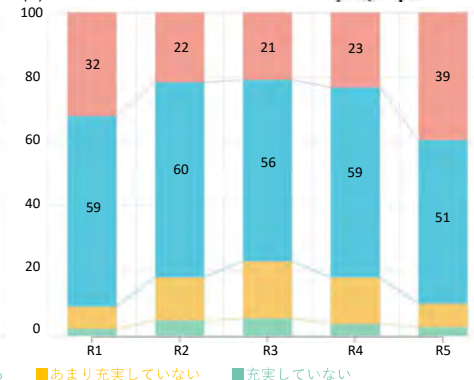


後期カリキュラムガイダンスにて行っている、学生調査データを覗いてみましょう。
今回ご紹介するのは学生生活の満足度についてのデータです。

▼1年生調査データ



▼上級生調査データ



令和元年から令和5年にかけての学生生活が充実していると答えた学生の割合の推移は…

1年生 91% → 36% → 79% → 84% → 93%

上級生 91% → 82% → 77% → 82% → 91%

令和2年に初めて国内で新型コロナウイルスの感染が確認されました。それからというもの、入学式や医獣祭、実習、サークル活動など、様々なことが制限されてきました。徐々に本来の学生生活を取り戻し、4年かけてやっと元通りの数値になりました。コロナ真っ只中で入学した令和2年度の1年生も、4年生になる頃には充実した学生生活を送ることができたようです。

食品科学科

准教授 知久 和寛

——なぜ、数ある資格の中で「HACCP管理者」に着目した理由と、本学食品科学科の学生へのどのような願いを込めたのか教えてください。

HACCPは、食品の食中毒菌汚染や異物混入などの危害要因（ハザード）を製造工程から排除・低減させるために、特にリスクが高いと考えられる重要な工程を管理し、食品の安全性を確保しようとする管理手法です。このHACCPに沿った衛生管理は、平成30年に制度化され、令和2年6月に施行されて、全ての食品事業者での導入が義務付けられています。

本学食品科学科の学生は大部分の方が食に関わる仕事につきますので、HACCPについては必ず知ってほしいと思いました。特に「HACCP管理者資格」はそれを取るために学ばなければならない内容がよく整理されており、系統的に学べるため、こちらの資格を勧めようと考えました。

——先生ご自身もHACCP管理者の資格取得をしたとお伺いしました。資格取得で苦労したところはどこなところですか？

私は食品安全や食品添加物の知識があったため、食品原料に潜む食中毒原因菌や異物混入、食品添加物の使用方法や規制などの知識を持っていました。そのため、ハザードを分析するのはあまり苦労をしませんでした。ただし、食品の製造には関わってきたことがなかったため、畜肉製品のHACCPプランを作成するよう試験で指示された際には、苦労しました。乳肉利用学教室の三浦先生からのご助言のお陰で対応できたと思います。



紫雲賞

日本獣医生命科学大学後援会の協賛事業で、本学の学生の教育並びにその推進に優れた貢献をした教員及び団体を表彰します。

HACCP管理者の資格課程導入と資格取得者実績

Congratulations
on the AWARD !!

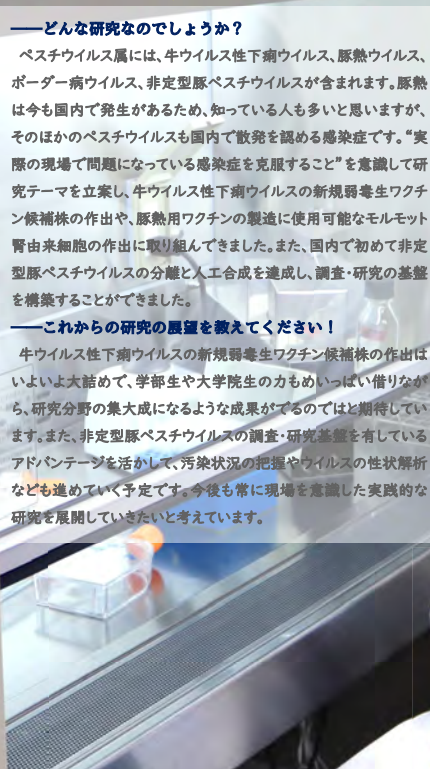
令和5年度の表彰をご紹介します。
受賞者の皆さま、おめでとうございます。

——どんな研究なのでしょう？

ペスチウイルス属には、牛ウイルス性下痢ウイルス、豚熱ウイルス、ポードラ病ウイルス、非定型豚ペスチウイルスが含まれます。豚熱は今も国内で発生があるため、知っている人も多いと思いますが、そのほかのペスチウイルスも国内で散発を認める感染症です。“実際の現場で問題になっている感染症を克服すること”を意識して研究テーマを立案し、牛ウイルス性下痢ウイルスの新規弱毒生ワクチン候補株の作出や、豚熱用ワクチンの製造に使用可能なモルモット腎由来細胞の作出に取り組みしてきました。また、国内で初めて非定型豚ペスチウイルスの分離と人工合成を達成し、調査・研究の基盤を構築することができました。

——これからの研究の展望を教えてください！

牛ウイルス性下痢ウイルスの新規弱毒生ワクチン候補株の作出はいよいよ大詰め、学部生や大学院生の方にもいっばい借りながら、研究分野の集大成になるような成果がでるのではと期待しています。また、非定型豚ペスチウイルスの調査・研究基盤を有しているアドバンテージを活かして、汚染状況の把握やウイルスの性状解析なども進めていく予定です。今後も常に現場を意識した実践的な研究を展開していきたいと考えています。



獣医保健看護学科

講師 塩川 舞

梅野信吉賞

日本獣医生命科学大学同窓会の協賛事業で、若手研究者の奨励を目的とし、顕著な業績を挙げ本学の荣誉に貢献した教員を表彰します。

ペスチウイルスを中心とした産業動物のウイルス感染症研究

Special THANKS



日本獣医生命科学大学後援会
会長 遠藤由佳（獣医学科40期卒）

日本獣医生命科学大学後援会

より、激励のメッセージ

この度、食品科学科の知久和寛先生におかれましては、令和5年度紫雲賞の受賞、誠にありがとうございます。後援会では、紫雲賞副賞として、30万円を協賛・授与しております。

「紫雲賞」の目的は「本学学生の教育並びにその推進に優れた貢献をした教員及び団体を表彰する」とあります。知久先生ご自身が「HACCP（ハサップ）管理者」資格を取得し、食品科学科で学生がワークショップを受講する道を拓き、「HACCP管理論」の講義を立ち上げるなど、学生の将来を見据えた教育活動は模範となるものであり、今回の受賞につながりました。

設立34周年を迎えた後援会では、本事業のほかに、懇談会・見学会の開催、クラブ・学術活動等学生諸活動に対する支援など、大学および学生に寄り添った支援を続けております。大学および同窓会と協調し、皆様のお声に耳を傾けながら時代に即した支援活動を行ってまいります。結びとなりますが、先生方の益々のご活躍と大学の発展を祈念いたします。

Special THANKS



日本獣医生命科学大学同窓会
会長 左向敏紀

日本獣医生命科学大学同窓会

より、激励のメッセージ

塩川舞先生、「梅野信吉賞」受賞おめでとうございます。

同窓会では、若手研究者の奨励を目的とし、顕著な研究業績を挙げ本学の荣誉に貢献した教員に贈られる「梅野信吉賞」だけでなく、母校の行事、活動には出来る限りの協力を行っています。

また、学生支援としては、学生奨学金、入学・卒業祝い、就職支援活動、医獣祭への賛助・協力といった学生生活の支援を行っています。

卒業した同窓生の種々のイベントも企画しており、医獣祭に併せて開催している「ホームカミングデー」では特別講演（令和6年度は田島木綿子さん）や卒業生・在校生が集える企画を実施しています。塩川舞先生におかれましては、今回の受賞を機に、先生のご活躍が更に実りあるものになることをお祈りしています。併せて母校学生の指導をよろしくお願いいたします。

新任教員紹介

令和6年4月より、本学に着任した5名の教員のご紹介。
ホームページもあわせてどうぞ!

獣医保健看護学科 獣医保健看護学臨床部門 助教 秋山 蘭



▲秋山助教
研究者情報

旅行好きな秋山先生は、
見知らぬ土地に行く旅行がお好きなんだとか!
山形県の銀山温泉や伊豆大島など日常生活
でなかなか触れることがない空気を感づける贅沢
な時間がとても楽しいんだって!



獣医学科の皆さん!

比較細胞生物学研究室では、
室員を大募集しています!!

1. これまでは...

私は本学獣医学部獣医学科卒業後、大学院博士
課程に進み学位を取得しました。その後、東京医科
歯科大学、南フロリダ大学、ペンシルベニア州立大
学の医学部にて基礎研究を行ってきました。2018
年からは、岡山理科大学獣医学部獣医学科で実
験動物学を、2024年から本学、比較細胞生物学
研究室の教授として生物学を担当しています。
研究は骨や腱、筋肉などの運動器について、医学、
薬学、歯学、理工学など様々な分野の先生方と共
同研究することで、創薬開発、医療デバイスの開発
や栄養管理など多面的にアプローチしています。興
味のある学生さんは是非一緒にやりましょう!

おまけ:好きなもの&大事なもの

猫、スキューバダイビング、フラメンコ

獣医学科 比較細胞生物学研究室 教授 伊豆 弥生 Yayoi Izu



▲伊豆教授
研究者情報

本学でもいろんな先生方とコラボ
レーションした研究を進めていきたい
また、基礎教育分野を任されていますので、専門領域にスムーズにシム
レスに移行できるよう進めていきたい
とお話いただきました!!

collaboration



1. これまでは...

動物看護師を育成する別の大学にて勤務して
いました!

2. これからは...

人と動物の関係学では、愛玩動物看護師とし
ての視点が切り離せないものだと考えています。
犬の散歩ひとつにおいても、犬の飼い主様の不
適切なハンドリングやマナー違反は、犬を飼育し
ていない人や、犬が苦手な人にも恐怖感や不快
感を与えてしまうかもしれません。また、疾患を抱
えた動物の飼い主様においては、毎日の体調が
気がかりで不安な気持ちになるかもしれません。
このような様々な状況下にある人と動物がともに
暮らす中で、お互いの関係がよりよく繋がり、より
豊かな生活になるように支援できる愛玩動物看
護師の育成を目指したいと考えています。

学生へメッセージ★

大学生である時間を有意義に過ごしてほしい
です。私自身、この大学で過ごした時を振り返
ると、学びも遊びも毎日が充実して楽しかったとい
う思い出いっぱい!このご縁は一生続きます。
今しかないこの時間を存分に使って、将来に
繋げてほしいと思います。

NICE!

旅行楽しいわ~



Yes!

1. これまでは...

本学在学時より田中亜紀先生のご指導のもと、
シェルターメディスン分野の研究活動に従事しま
した。その中でも特にブリーダー業界に着目し、
動物福祉の向上に向けて、現場視察など様々な
活動を行っています。

2. これからは、

シェルターメディスンはまだまだメジャーでは
ないですが、これからどんどん広まっていく重
要な分野だと思うので、その発展の一助となるべ
く一生懸命活動に取り組んでまいります。

好きなこと♡

海外旅行が大好きです。学生の時ほど頻繁に
というわけにはいきませんが、時間を作ってこれ
からも色々な場所を訪れてみたいです。また運動
も好きで、最近はボラリスにハマっています。

シェルターメディスン 社会連携講座 助教 鈴木 亜美

1. これまでは...

獣医学科卒業後、動物医療センターの研修医に就職し2年間の全
科研修を行いました。そこで内科・外科など診療の基礎を学びました。
その後アドバンス研修医として軟部外科を専攻し一般外科の知識、
手技を習得しました。

2. これからは、

現在は動物医療センターの助手となり画像診断・放射線治療に携
わっています。画像診断はCTやMRIを撮影し精度の高い診断を付
け治療へ繋がっていきます。放射線治療は主に腫瘍に対しての治療を
行なっています。獣医療においてこの治療方法は比較的新しい分野
であり、その可能性は今後も広がっていくと思います。

大切なもの

大切なものは5歳になった我が家の猫です。食いつく坊で運動音痴
で猫らしからぬところがとても愛しいです。いつまでも元気に一緒に
過ごしていきたいです。

おいしいよ



動物医療センター 助手 杉林 佳代子

Year

動物医療センター 講師 淀 健治

nichistagram

#七夕の願い事

Related Hashtags! #投稿してくださった皆さん! #ありがとうございます! #またよろしくお願いします!



nvl_u_nyan



#産業動物 #アニマルファーム
#3年生研究室スタート

牛や馬の身体検査ができるようになりたい!



nerunoa

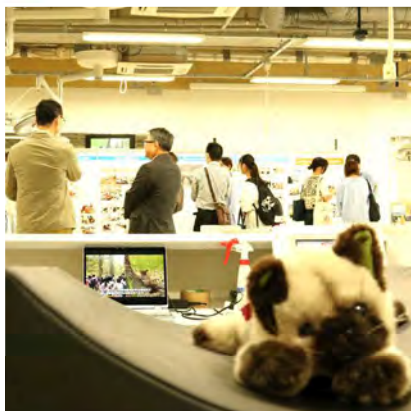


#やんちゃ坊主のあ
#ビビりお嬢ねる #不仲?

2人とも仲良く、長生きしてほしいな



jimu.NVLU

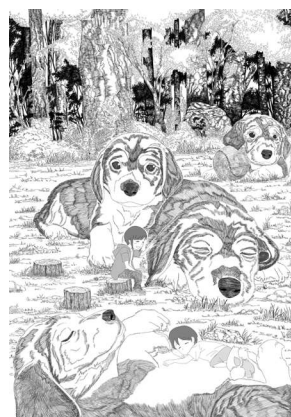


#オープンキャンパス
#次回は10月開催!

たくさん人が来ますように!

第79号表紙絵

鹿野 峻さん(獣医学科6年次)



自分の描けるものを精一杯描かせて頂きました。森の中で出会った大きな子犬と子供が仲良くなるというシーンを描いたのですが1人でも多くの方が表紙絵を見て大学報に興味を持って頂ければと思います。

今年度より再開した大学報ですが、本誌の存在を知らない方も多いと思います。本誌を手にとった方に改めて日獣の魅力と新たな発見を届けられれば幸いです。

Hello, we are NVLU(ニチジュウ) -日本獣医生命科学大学報-第79号(2024年8月号) 2024年8月13日発行

協力(以下敬称略)/教職員: 鈴木学長 金田剛治 関瀬利 宮田拓馬 岡田幸之助 三浦孝之 田島剛 小柳円 近江俊徳 森昭博 小田民美 塩川舞 知久和寛 伊豆弥生 秋山蘭 淀健治 杉林佳代子 鈴木亜美 遠藤由佳 左向敏紀 水口一博 矢崎里紗 楡井ひより 中田ひかる 笹原紅愛 大沼采愛 奥田晃世 渋谷純礼 酒見朋佳 山本孝磨 佐々木志野 鈴木陽香 三井奈緒 藤原溪

その他ご協力いただいた皆様ありがとうございました!

表紙/鹿野峻

編集・発行/日本獣医生命科学大学広報委員会(大学広報誌検討チーム)藤野萬純 加藤千佳 加賀美早紀 堀碧衣 石井奈穂美

(事務局長)神代浩

(入試課)赤星昌史 大沼友美 石田麻衣子 堀碧衣 成相亮平

印刷/デジタルブレンド株式会社

